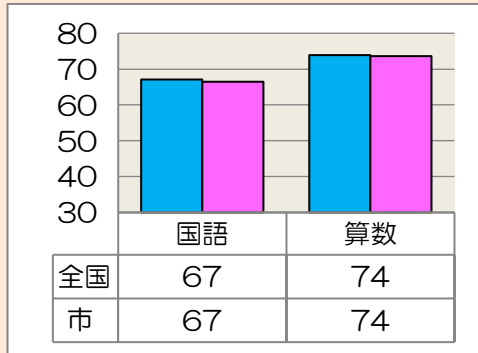
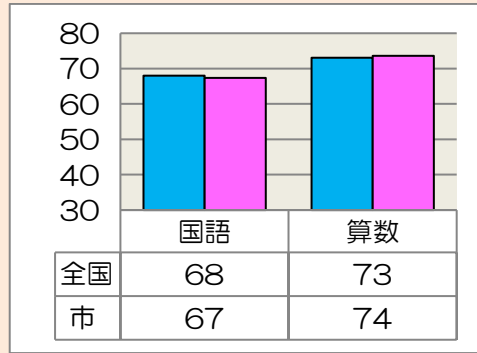


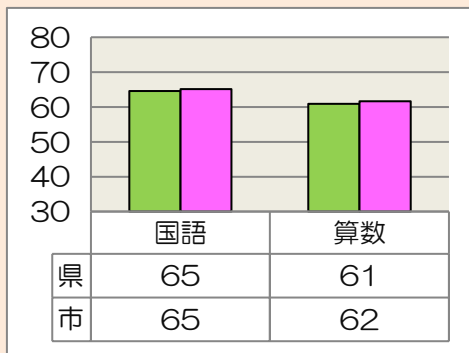
【小学3年生】市学力



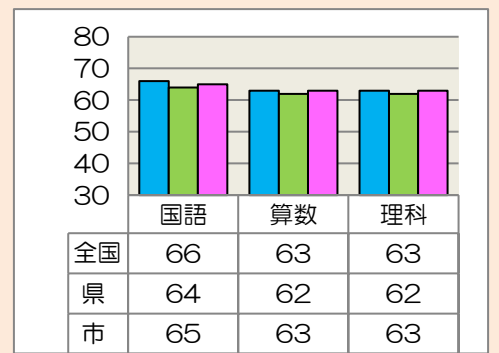
【小学4年生】市学力



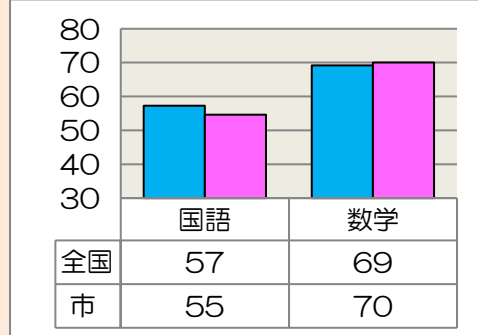
【小学5年生】県学力



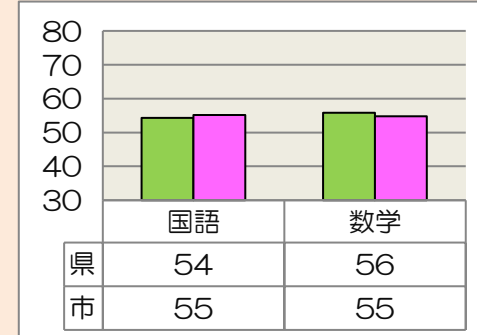
【小学6年生】全国学力



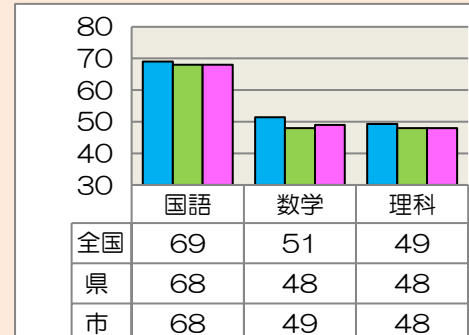
【中学1年生】市学力



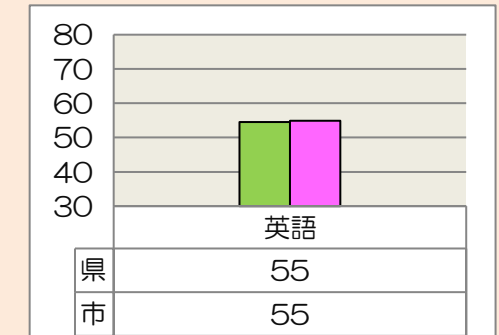
【中学2年生】県学力



【中学3年生】全国学力



【中学3年生】県学力



【実施日】

国語科・算数科/数学科：令和4年4月19日（火） 英語科：令和4年4月20日（水）

【各学力調査の対象学年・教科】

- ◇長崎市学力調査
  - 小学3・4年生（国・算）
  - 中学1年生（国・数）
- ◇長崎県学力調査
  - 小学5年生（国・算）
  - 中学2年生（国・数）
  - 中学3年生（英）
- ◇全国学力・学習状況調査
  - 小学6年生（国・算・理）
  - 中学3年生（国・数・理）

※結果は、正答率（%）で表記



全国学力・学習状況調査結果の概要と改善の方向性

1 学力調査結果の概要

（1）良好な項目

- 小学校国語では、「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」問題において、全国及び県平均正答率を上回り、成果が見られる。中学校国語では、「文脈に即して漢字を正しく書く」問題において、全国及び県平均正答率を上回り、成果が見られる。
- 小学校算数では、「図形」領域において、図形を作図したり、図形の性質の理解を問うたりする問題で全国及び県平均正答率を上回る成果が見られる。中学校数学では、与えられた条件からデータを読み取って数学的に考察したり、問題場面における考察の対象を明確に捉えたりすることができる問題に成果が見られる。
- 小学校理科では、「生命」及び「地球」の領域において、身近な自然現象や視覚的に捉えイメージすることができる問題に成果が見られる。中学校理科では、化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す問題で、全国及び県平均正答率を上回る成果が見られる。
- 中学校英語では、「書くこと」の領域において、会話の内容から推測し、自分の発言として適切な英文を書く問題で、県平均正答率を大きく上回る成果が見られる。

（2）課題がある項目

- 小学校国語では、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」問題において、最も正答率が低い。無解答率も高く、課題が見られる。中学校国語では、「表現技法の理解」「語句の意味の理解」など言語知識を問う問題において、全国及び県平均正答率を下回り、課題が見られる。
- 小学校算数では、データを二つの観点から分類し二次元の表に整理することや割合の意味の理解に課題が見られる。中学校数学では、事象を数や式を用いて考察する場面において、事象の特徴を的確に捉えることや、図形の問題で条件を基に、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
- 小学校理科では、「エネルギー」及び「粒子」などの領域において、概念について問う記述式の問題に課題がある。中学校理科では、「エネルギー」の領域である「力」について、基礎的な「知識・技能」及び実験結果の分析・考察を自分の言葉で記述する問題に課題が見られ、無解答率も高い傾向がある。
- 中学校英語科では、自然な口調で話される日常的な話題についての対話を聞き、情報を正確に聞き取る問題に課題が見られる。

2 児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等の調査）の結果の概要

（1）良好な項目

- 「いじめはいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」の項目において、小・中学校ともに全国平均と比べて高く良好である。
- 「一日あたりの読書時間」の項目において、30分以上読書をする割合は、中学校で全国平均を上回っている。
- 「基本的な生活習慣」の「起床」「朝食」「就寝」の項目において、中学校は全国平均を上回っており、良好である。
- 「1日当たりどれくらいの時間ICT機器を勉強のために使っていますか」の項目において、小・中学校ともに全国平均を上回っている。

（2）課題がある項目

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」の項目において、小学校では全国平均を下回っている。
- 「家庭学習」の項目において、小学校では1時間以上、中学校では2時間以上勉強する割合が全国平均を下回っている。また、「計画を立てて勉強をしている」の項目において、小学校では全国平均を下回っている。
- 「地域の行事に参加している」の項目において、小・中学校とも全国平均を6ポイント以上下回っている。
- 「学校で、学級の友だちと意見交換をする場面でICT機器を使っているか」の項目において、週3回以上と回答した割合は、小・中学校とも全国平均を下回っている。

3 改善の方向性

- ①基礎・基本定着のための方策 ⇒ (例) 一人ひとりの弱点を克服できるような個に応じた適切な指導やAIドリル等を用いた学習
- ②課題改善のための授業づくり ⇒ (例) 児童・生徒が、課題を自分事として捉え、主体的な取組を育む授業づくり
- ③家庭学習の習慣化と質的向上 ⇒ (例) 小：今日、学習したことの復習の徹底、中：自分で計画を立てての実践継続、小中：家庭学習の仕方についての具体的な指導
- ④夢や目標に向かって挑戦する力の育成 ⇒ (例) 小学校からのキャリア教育の充実や体験活動を重視した取組
- ⑤チームで取り組む学力向上 ⇒ (例) 「学力向上プラン」「校内研修」「研究授業」等の取組

学校・家庭・地域が一丸となった継続的な取組推進